教職大学院生による「外所地震」の伝承を題材とした防災学習

2026 年 2 月 5 日（木)、宮崎市立古城小学校の 4 年生 19 名を対象に、地域に伝わる大地震「外所地震」をテーマとした防災学習フィールドワークを実施しました。

外所地震（とんところじしん）は、寛文 2 年（1662 年）に現在の宮崎県沿岸、日向灘を震源として発生したと考えられている地震です。強い揺れに加えて津波が発生し、加江田川河口付近にあった外所村は大きな被害を受け、海に沈んだと伝えられています。このことから、この地震は「外所地震」と呼ばれています。

宮崎県内には、地震や津波の記憶を伝える供養碑や慰霊碑が数多く残されており、過去の災害の教訓を後世に伝える役割を果たしてきました。外所地震は、地域の歴史と防災を結びつけて学ぶ上で、重要な災害事例の一つです。

今回のフィールドワークでは、本学教職大学院 2 年の大島悠暉さんと菊池陽香さんが講師となり、紙芝居「とんところ地震」の実演や防災クイズの出題、石碑「外所大地震追悼供養碑」および「外所地震津波慰霊碑」についての説明を行いました。

参加した児童からは、

「地域の地震の歴史を実際に見られてよくわかりました」

「紙芝居やクイズが楽しく、防災について深く考えることができました」

「地震のおそろしさを知ることができ、この授業を受けてよかったです」

「外所地震のことを、怖さを含めて伝えていきたいです」

といった感想が寄せられ、充実した学習の機会となりました。

本学では、地域の災害史を題材とした防災教育の実践モデルとして、今後もこのような取り組みを継続して企画・支援するとともに、南海トラフ地震など将来の災害に備える意識を育む教育を進めていきます。

紙芝居と解説を通して、外所地震の伝承と防災の教訓を学ぶ児童の様子